

◎ 2歳を過ぎても、片時も私(母)から離れて遊べないので、どうしたらいいでしょうか？

A 今まで、一日のほとんどをお母さんと二人で過ごしてほかの親子との交流が少なかったのかもしれないね。2歳くらいになると、行動も活発になり、ほかの子ともたちと遊び、外でいろいろな経験をしたりする時期です。そろそろ、お母さんも相手をすることを覚えていきましょうか？ また、2歳前後は、個人差もありますが、親への愛着が一番強い時期です。ですから、今は無理に離そうとせずにお子さんの成長を見ながら、ゆつくりと集団の場に慣らしていくと良いと思います。

子どもの成長を待つてゆつくりでいいのです。

支援センターには、毎年、子育てサロン「あそぼう会」というサロンに町内在住の未就園児の親子がたくさんおでかけいただいています。だれもが、はじめは「我が子が集団に慣れるだろうか？」とお友だちができるかしら？」と不安や期待を抱きながら参加されますが、同世代の子どもを持つ親として情報交換や意見交換をしながら、何度か通ううちに子どもは、子ども同士で遊ぶ姿がみられるようになり、お母さん方も仲間ができ、安心してケースも多いようです。子育ては、一人で悩まずに楽しんで解決できると思いますね。

問 開成町子育て支援センター
☎ 82-1222

昨

年の夏休みに三年生の係の生徒たちと卒業時に配布するアルバムに使う写真を選ぶ作業をしました。生徒たちは一年生の写真になると、写真を選ぶことを忘れ、写真に見入ってしまいました。そこには幼い顔をした自分たちの姿が写っていました。中にはあまりの変わりぶりに「えー」と声を上げる場面もありました。おかげで作業が進まないこと…。

毎

日見ているとなかなか生徒たちの変化に気づかないものですが、一年生の時の写真を見ると、生徒たちが確実に成長をしていたことを実感する時もありました。



三

年間、考えようによつてはたった三年間とも言えますが、生徒たちにとってはこの三年間で大きく成長しました。幼かった一年生だったのが、今では大人と見間違ふような体つきと言動、大人への階段を駆け足で登っているかのようです。



文命中学校 教諭 永田 安男

生

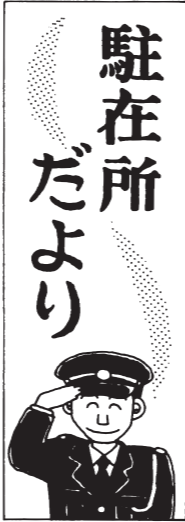
徒たちの成長の様子を思い返してみると、友達関係や保護者、すべての周りの人々などの環境からさまざまな影響を受けながら変わっていったようです。ですから、大人としても、その点に注意していく必要を強く感じました。しかし昔と違い現在は情報化社会となり、周囲からも見ることでできない広

去

三月十二日、第六十三回卒業式が無事行われ、百四十九人の生徒たちが文命中学校を巣立っていきました。証書授与で担任から名前を呼ばれ、返事をする生徒たちを見ながら三年学年主任として3年間のできごとを思い出し、今後の幸せな生活を願っていました。

た

だ、成長を重ねるうちに自分で環境を作り上げる力がついてきます。卒業生はそれぞれ今までと違った環境の中に飛び込んでいきました。これからは自らよい環境をつくり、そしてよい影響を受け自分を成長させていくて欲しいと思います。



松田警察署
延沢駐在所 ☎83-5434
吉田島駐在所 ☎83-5457

高齢運転者等専用駐車区間制度が

4月19日から導入されました。

○高齢運転者等専用駐車区間とは？

駐車禁止場所において、高齢運転者等が運転する普通自動車(標章の掲示が必要)だけが駐車できるよう、道路標識等で指定されたスペースです。駐車スペースの不足している官公庁や病院、福祉施設などの直近の路上に設けられます。

○高齢運転者等とは？

普通自動車免許を受けた者で、70歳以上の高齢者マークの対象者、身体障害者マーク・聴覚障害者マークの対象者、妊娠中または出産後8週間以内の方。ただし、免許証を受けている本人が申請して交付された標章が必要となります。

○標章の申請先

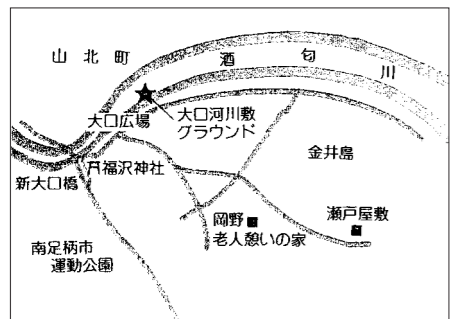
最寄りの警察署にて本人が申請してください。申請時には、標章申請書・運転免許証・自動車検査証・妊娠の事実または出産の日を証明できる書類(母子健康手帳等)が必要となります。

詳しくは松田警察署にお問い合わせください。

☎ 82-0110



大口の競馬



ぶらりと歩きながら開成町の文化を発見、再確認してみませんか。開成町に残る遺蹟を紹介します。



開成町と大口の競馬

開成町の北西にある丘を昔から大口、その堤防を大口の堤防といい、上部に福沢神社があります。大口は酒匂川の上流からの水が足柄平野に流れ出る場所です。昔から農家の方は堤防のきれいな防ぎのため、春になると開成町や川下の村の方が順番に堤防に集まり、大水に備え、河原から少し大きめの石(坪石)を拾い集め、堤防上に積み重ねておきました。

明治四十(一九〇七)年頃、馬を飼育する農家が増え、競馬話が話題となりました。その要望に沿い、大口競馬が神社の祭典に合わせ、地元青年会が主催者となり五月五日、六日の二日間にわたり始まったといわれています。幸いなことに堤防の中州に一周約四百メートルの楕円形馬場がとれたため、各地の競走馬を集め、年々盛会に実施がなされ、馬が六十頭も集まりました。開成町からもすぐれた馬や馬の上手な乗り手が出場し、レースを盛り上げました。賞品は近くの村々の料理店や商店などから布地の吹き流し旗が寄贈され、開成町をはじめ、他の村々から多くの見物客が集まり、露天商も多く並びました。足柄地方で一番有名な競馬でしたが、昭和二十五(一九四五)年、県の河川整備で馬場がなくなり、惜しまれつつ姿を消しました。

※お子さんも読めるようにふりがなを付けています。
(文責 開成町文化財保護委員会 諸星 光)

歴史散歩 13